

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(耐震性についての計算書:原子炉本体の基礎他)

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-添1-041	VI-1-2-1 原子炉本体の基礎に関する説明書	P.16	他の図書と表現を統一するため、文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)水平地震力と鉛直地震力を組み合わせるにあたっては組合せ係数法を適用する。水平地震力に対する係数1.0と組み合わせる鉛直地震力に静的震度を使用する場合には、鉛直地震力に対する係数は1.0を用いる。 (新)水平方向及び鉛直方向の動的地震力の組合せには、組合せ係数法を適用する。	2022/2/24	
2	NS2-添2-003-12	VI-2-3-3-2-1 原子炉圧力容器スタビライザの耐震性についての計算書	P.5	マスキング範囲を適正化しました。 ・「2.4記号の説明」をマスキング範囲から除外	2022/2/24	
3	NS2-添2-003-12	VI-2-3-3-2-1 原子炉圧力容器スタビライザの耐震性についての計算書	P.8	文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)応力を比倍(荷重比)して評価する。 (新)応力に荷重比を乗じて評価する。	2022/2/24	
4	NS2-添2-003-13	VI-2-3-3-2-2 原子炉格納容器スタビライザの耐震性についての計算書	P.5	マスキング範囲を適正化しました。 ・「2.4記号の説明」をマスキング範囲から除外	2022/2/24	
5	NS2-添2-009-02	VI-2-9-2-1 ドライウエルの耐震性についての計算書	P.8	表4-2における設備分類の誤りを修正し、併せて注記*1の記載を適正化しました。	2022/2/24	
6	NS2-添2-009-02	VI-2-9-2-1 ドライウエルの耐震性についての計算書	P.14	文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)応力を比倍(圧力比、荷重比等)し評価する。 (新)応力に圧力比又は荷重比を乗じて評価する。	2022/2/24	
7	NS2-添2-009-02	VI-2-9-2-1 ドライウエルの耐震性についての計算書	P.17	疲労評価に適用する規格について、表4-3の注記*1と同じ表現に適正化しました。(下線部参照) (旧)設計・建設規格 PVB-3300に基づいて (新)設計・建設規格 PVB-3300(PVB-3313を除く。また、S _m はSと読み替える。)に基づいて	2022/2/24	
8	NS2-添2-009-07	VI-2-9-2-6 機器搬入口の耐震性についての計算書	P.5	図中の「W(死荷重又は活荷重)」を示す矢印が識別しにくかったため、矢印の太さを修正しました。	2022/2/24	
9	NS2-添2-009-07	VI-2-9-2-6 機器搬入口の耐震性についての計算書	P.14	基準とする震度を表で示した上でこれを上回る震度を評価に適用する旨を記載していましたが、評価に適用する震度を表で示し、これに伴い以下の記載を削除しました。 ・ここで、機器搬入口の評価においては、表5-6に記載の設計震度を上回る震度を用いて評価を実施 ・ここで、機器搬入口の評価においては、表5-7に記載の設計震度を上回る震度を用いて評価を実施する。	2022/2/24	
10	NS2-添2-009-07	VI-2-9-2-6 機器搬入口の耐震性についての計算書	P.15,16	表5-6及び表5-7について、評価に適用する震度の設定において基準とする震度を表で示していましたが、評価に適用する震度を表で示すこととして修正しました。 また、他の図書にあわせた表のフォーマットに適正化しました。これに伴い、注記を適正化しました。	2022/2/24	
11	NS2-添2-009-07	VI-2-9-2-6 機器搬入口の耐震性についての計算書	P.18	文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)応力を比倍(圧力比、荷重比等)し評価する。 (新)応力に圧力比又は荷重比を乗じて評価する。	2022/2/24	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
12	NS2-添2-009-07	VI-2-9-2-6 機器搬入口の耐震性についての計算書	P.20	疲労評価に適用する規格について、表5-3の注記*2と同じ表現に適正化しました。(下線部参照) (旧)設計・建設規格 PVB-3300に基づいて (新)設計・建設規格 PVB-3300(PVB-3313を除く。また、S _m はSと読み替える。)に基づいて	2022/2/24	
13	NS2-添2-009-08	VI-2-9-2-7 逃がし安全弁搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.5	図中の「W(死荷重又は活荷重)」を示す矢印が識別しにくかったため、矢印の太さを修正しました。	2022/2/24	
14	NS2-添2-009-08	VI-2-9-2-7 逃がし安全弁搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.15,16	表5-6及び表5-7について、他の図書にあわせた表のフォーマットに適正化しました。これに伴い、注記を適正化しました。	2022/2/24	
15	NS2-添2-009-08	VI-2-9-2-7 逃がし安全弁搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.18	文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)応力を比倍(圧力比、荷重比等)し評価する。 (新)応力に圧力比又は荷重比を乗じて評価する。	2022/2/24	
16	NS2-添2-009-08	VI-2-9-2-7 逃がし安全弁搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.20	疲労評価に適用する規格について、表5-3の注記*2と同じ表現に適正化しました。(下線部参照) (旧)設計・建設規格 PVB-3300に基づいて (新)設計・建設規格 PVB-3300(PVB-3313を除く。また、S _m はSと読み替える。)に基づいて	2022/2/24	
17	NS2-添2-009-09	VI-2-9-2-8 制御棒駆動機構搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.5	図中の「W(死荷重又は活荷重)」を示す矢印が識別しにくかったため、矢印の太さを修正しました。	2022/2/24	
18	NS2-添2-009-09	VI-2-9-2-8 制御棒駆動機構搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.14	基準とする震度を表で示した上でこれを上回る震度を評価に適用する旨を記載していましたが、評価に適用する震度を表で示し、これに伴い以下の記載を削除しました。 ・ここで、制御棒駆動機構搬出ハッチの評価においては、表5-6に記載の設計震度を上回る震度を用いて評価を実施する。 ・ここで、制御棒駆動機構搬出ハッチの評価においては、表5-7に記載の設計震度を上回る震度を用いて評価を実施する。	2022/2/24	
19	NS2-添2-009-09	VI-2-9-2-8 制御棒駆動機構搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.15,16	表5-6及び表5-7について、評価に適用する震度の設定において基準とする震度を表で示していましたが、評価に適用する震度を表で示すこととして修正しました。 また、他の図書にあわせた表のフォーマットに適正化しました。これに伴い、注記を適正化しました。	2022/2/24	
20	NS2-添2-009-09	VI-2-9-2-8 制御棒駆動機構搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.18	文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)応力を比倍(圧力比、荷重比等)し評価する。 (新)応力に圧力比又は荷重比を乗じて評価する。	2022/2/24	
21	NS2-添2-009-09	VI-2-9-2-8 制御棒駆動機構搬出ハッチの耐震性についての計算書	P.20	疲労評価に適用する規格について、表5-3の注記*2と同じ表現に適正化しました。(下線部参照) (旧)設計・建設規格 PVB-3300に基づいて (新)設計・建設規格 PVB-3300(PVB-3313を除く。また、S _m はSと読み替える。)に基づいて	2022/2/24	
22	NS2-添2-009-11	VI-2-9-2-10 所員用エアロックの耐震性についての計算書	P.5	図中の「W(死荷重又は活荷重)」を示す矢印が識別しにくかったため、矢印の太さを修正しました。	2022/2/24	
23	NS2-添2-009-11	VI-2-9-2-10 所員用エアロックの耐震性についての計算書	P.8	水平方向及び鉛直方向の動的地震力の組合せに組合せ係数法を適用することを記載しました。	2022/2/24	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
24	NS2-添2-009-11	VI-2-9-2-10 所員用エアロックの耐震性についての計算書	P.14	基準とする震度を表で示した上でこれを上回る震度を評価に適用する旨を記載していましたが、評価に適用する震度を表で示し、これに伴い以下の記載を削除しました。 ・ここで、所員用エアロックの評価においては、表5-6に記載の設計震度を上回る震度を用いて評価を実施する。 ・ここで、所員用エアロックの評価においては、表5-7に記載の設計震度を上回る震度を用いて評価を実施する。	2022/2/24	
25	NS2-添2-009-11	VI-2-9-2-10 所員用エアロックの耐震性についての計算書	P.15,16	表5-6及び表5-7について、評価に適用する震度の設定において基準とする震度を表で示していましたが、評価に適用する震度を表で示すこととして修正しました。 また、他の図書にあわせた表のフォーマットに適正化しました。これに伴い、注記を適正化しました。	2022/2/24	
26	NS2-添2-009-11	VI-2-9-2-10 所員用エアロックの耐震性についての計算書	P.18	文章表現を適正化しました。(下線部参照) (旧)応力を比倍(圧力比、荷重比等)し評価する。 (新)応力に圧力比又は荷重比を乗じて評価する。	2022/2/24	
27	NS2-添2-009-11	VI-2-9-2-10 所員用エアロックの耐震性についての計算書	P.20	疲労評価に適用する規格について、表5-3の注記*2と同じ表現に適正化しました。(下線部参照) (旧)設計・建設規格 PVB-3300に基づいて (新)設計・建設規格 PVB-3300(PVB-3313を除く。また、S _m はSと読み替える。)に基づいて	2022/2/24	
28	NS2-添2-009-12	VI-2-9-2-12 電気配線貫通部の耐震性についての計算書	P.17	基準とする地震力を示した上でこれを上回る地震力を評価に適用する旨を記載していましたが、評価に適用する地震力を表で示し、これに伴い以下の記載を削除しました。 ・ここで、電気配線貫通部の評価においては、表4-9に記載の設計震度及び表4-10に記載の相対変位を上回る震度及び相対変位を用いて評価を実施する。 ・ここで、電気配線貫通部の評価においては、表4-11及び表4-12に記載の地震荷重を上回る荷重を用いて評価を実施する。 ・ここで、電気配線貫通部の評価においては、表4-13に記載の設計震度及び表4-14に記載の相対変位を上回る震度及び相対変位を用いて評価を実施する。 ・ここで、電気配線貫通部の評価においては、表4-15及び表4-16に記載の地震荷重を上回る荷重を用いて評価を実施する。	2022/2/24	
29	NS2-添2-009-12	VI-2-9-2-12 電気配線貫通部の耐震性についての計算書	P.18,20	表4-9及び表4-13について、評価に適用する震度の設定において基準とする震度を表で示していましたが、評価に適用する震度を表で示すこととして修正しました。 また、表のフォーマット及び注記を他の図書にあわせ適正化しました。	2022/2/24	
30	NS2-添2-009-12	VI-2-9-2-12 電気配線貫通部の耐震性についての計算書	P.19,21	相対変位及び荷重について、評価に適用する値の設定において基準とする値を表で示していましたが、評価に適用する値を表で示すこととして修正しました。	2022/2/24	
31	NS2-添2-009-12	VI-2-9-2-12 電気配線貫通部の耐震性についての計算書	P.22	矢印が示す評価点の位置を適正化しました。	2022/2/24	
32	NS2-添2-009-12	VI-2-9-2-12 電気配線貫通部の耐震性についての計算書	P.26	疲労評価に適用する規格について、表4-3の注記*2と同じ表現に適正化しました。(下線部参照) (旧)設計・建設規格 PVB-3300に基づいて (新)設計・建設規格 PVB-3300(PVB-3313を除く。また、S _m はSと読み替える。)に基づいて	2022/2/24	